

ありがとうを、つぎの100年へ。



100th Anniv.

四半世紀ぶりに新型特急車両が登場！
～これからの100年に向けたフラッグシップトレイン～
2018年度、新型特急車両が走り出します！

- 建築家 せじまかずよ 妹島和世氏が初めて鉄道車両のデザインを担当！
- デザインコンセプトは
 - ①都市や自然の中でやわらかく風景に溶け込む特急
 - ②みんながくつろげるリビングのような特急
 - ③新しい価値を創造し、ただの移動手段ではなく、目的地となる特急

西武鉄道株式会社（本社：埼玉県所沢市、社長：若林 久）では、2018～2019年度に新型特急車両を56両導入します。2012年度より実施してまいりました西武鉄道100年アニバーサリーの集大成である観光電車「52席の至福」、新型通勤車両40000系とともに、次の100年に向けたこれからの西武鉄道のフラッグシップトレインとして特急車両を新造します。特急車両の新造は、現在運行している10000系車両“ニューレッドアロー”の登場から25年ぶりです。

新型特急車両は、これまでにない新しい発想の特急車両をつくるために、世界で活躍する建築家・妹島和世氏にデザインコンセプトの策定、外観・内観のデザインを依頼しました。妹島氏がデザインを手掛ける初めての鉄道車両であり、当社と一丸となり開発に取り組みます。車両デザインは、風景に溶け込むようなやわらかいデザインを目指します。

通勤・通学や観光利用などさまざまなお客さまに満足いただける特急車両の実現を目指し、乗車することはもちろん、風景に溶け込んでゆく車両の姿を見るだけでも楽しくなるような新型特急車両をお客さまに提供します。

詳細は、別紙のとおりです。



新型特急車両 イメージ

※現在検討中のイメージイラストであり、実際のものとは異なります。

【別紙】

新型特急車両について

1. 概要

- (1) 導入両数 56両 (8両×7編成)
- (2) 運行開始 2018年度 (予定)
※具体的な運行開始日は、あらためてお知らせします。
- (3) 製作会社 株式会社日立製作所

2. デザインコンセプト

(1)都市や自然の中でやわらかく風景に溶け込む特急

これまでの特急デザインのように、シャープさや格好良さより、やさしさややわらかさを表現します。特急だけが風景の中で目立つのではなく、**風景と共にあるような特急**を目指します。

(2)みんながくつろげるリビングのような特急

いろいろな人が一緒にいながら思い思いに自由な時間を過ごせる空間を表現します。ゆったりくつろげるリビングのようでもあり、みんなが集まる公園のようでもある、それぞれが自分の時間を持てる**新しいパブリックスペース**の提供を目指します。

(3)新しい価値を創造し、ただの移動手段ではなく、目的地となる特急

乗り物の姿・形をデザインするだけでなく、みんなが参加することによって作り出されるような特急の新しい価値を表現します。**特急で過ごすことが目的となるような空間・雰囲気・たたずまいのデザイン**を目指します。

3. デザイナー

妹島和世氏

新型特急車両のデザインコンセプト策定、外観・内観デザインは、建築界のノーベル賞と言われる「プリツカー賞」を受賞され、世界で活躍される建築家 妹島和世氏に依頼しました。



© Aiko Suzuki

妹島氏コメント

「『いままでに見たことのない新しい特急車両を』ということでお話をいただきました。特急のデザインはもちろん初めてですが、建築と一番違うのはいろいろな場所を走ることが出来ることだと思います。秩父の山の中や都心の街の中と、いろいろな風景の中を走る特急が、やわらかくその風景と共にあるようになれば良いなと思いました。また、たくさんの方々がみんな思い思いにくつろげるリビンググループのような、今日もまた乗りたいなと思うような特急になればと思っています。」

<妹島和世氏プロフィール>

建築家。日本女子大学大学院を修了。1987年妹島和世建築設計事務所設立。1995年西沢立衛とともにSANAAを設立。2010年第12回ベネチアビエンナーレ国際建築展の総合ディレクターを務める。

主な受賞として日本建築学会賞*、ベネチアビエンナーレ国際建築展金獅子賞*(イタリア)、プリツカー賞*(アメリカ)、芸術文化勲章オフィシエ(フランス)、芸術選奨文部科学大臣賞*、村野藤吾賞など。

主な建築作品として、金沢 21 世紀美術館*(金沢市)、Dior 表参道*、犬島「家プロジェクト」(岡山市)、ニューミュージアム*(ニューヨーク)、2009 年サーペンタインギャラリーパビリオン*(ロンドン)、Rolex ラーニングセンター*(ローザンヌ・スイス)、ルーヴル = ランス*(ランス・フランス)など。最近では 2015 年 10 月、NY 郊外に「グレイス・ファームズ」*がオープンを迎えた。(※は SANAA として)

<代表作>

金沢 21 世紀美術館 (石川県金沢市)



© SANAA

ルーヴル=ランス (フランス、ルーヴル美術館・ランス分館)



© SANAA

【参考】

新型特急車両コンセプト策定にあたって

妹島氏がデザインイメージを具現化するためのサポートや、ユーザー目線での情報提供等を行うことを目的として、当社およびグループ会社から若手社員を中心にプロジェクトチームを構成しました。新型特急車両がどのようなものであって欲しいかチーム内で議論した結果、「いままでに見たことのない新しい特急車両」という想いが生まれました。妹島氏とプロジェクトチームで意見交換をし、今回のデザインコンセプトを策定しました。

西武鉄道の特急車両について



5000系車両 (レッドアロー)

1969年の西武秩父線開業と同時に特急「ちちぶ」用として作られた車両です。最盛期は6編成が活躍していましたが、10000系の登場で数を減らし、1995年に引退しました。

本車両は西武初の座席指定制有料列車専用車両として登場し、“レッドアロー”の愛称で呼ばれ、1970年度の鉄道友の会ブルーリボン賞を受賞しました。



10000系車両 (ニューレッドアロー)

初代特急レッドアロー号5000系に替わって、1993年に登場した特急車両です。「ゆとりとやすらぎの空間」をコンセプトに、ゆったりとしたシートピッチや車内案内表示器のほか、車いすでのご利用を配慮したシートやトイレも完備しています。

新宿線では「小江戸」として、池袋線・西武秩父線では「むさし」「ちちぶ」として、ビジネスにレジャーに多くのお客さまにご利用いただいています。

以 上

◇お客さまのお問合せ先

西武鉄道お客さまセンター TEL. (04) 2996-2888

音声ガイダンスのご案内により、メニューをお選びください。

[営業時間：平日 9 時～19 時 土休日 9 時～17 時]